

[水道橋] 今も生きている水道橋 京都・洛東 南禅寺の水路閣



↑ 水路閣の列柱 アーチの始点に飾り帯が配される

南禅寺の裏庭にある水道橋である。こんなところにとご存じない向きもあるかもしれない。京都発展の原動力として、琵琶湖の水を引き込む(疏水)大事業が明治政府によって計画された。飲料・水力発電・灌漑・工業用水など多目的な利用を目論み、第2期1912年(大正元年)の完成となる。併せて南禅寺界限を工業団地にしようと区画整理も行われた。幸いにもその事業は様々な理由から頓挫し、代わりにその土地は15区画ほどの大別荘地として今日に至る。1区画が5千~7千坪と桁外れに大きい。各界の著名人や大富豪の別荘がこの周辺にあるなんて、庶民は知らないで幸せだ。近頃IT長者のラリー・エルソンがその一角を買い取った(外人に売ってよいのか?)金持ちすぎる別荘に違和感がないわけではないが、この周辺が工場群になっていたとしたらどうだろう。頓挫してくれてよかったとだれでも思うのではないかな。

そもそもこのような広大な土地がなぜ調達できたのか。明治政府の神仏分離令による寺領の接收だ。それでもいまだにこれだけの領域を持っているのだからすごい。その由来は次による。

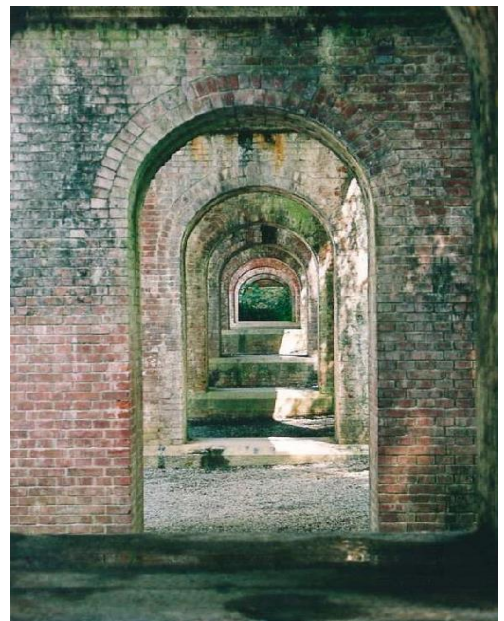
室町3代将軍義満は自ら造った相国寺を入れて五山を制定した(天竜寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺。いずれも臨済宗)。しかし以前に後醍醐天皇が祖父亀山上皇の建立した南禅寺を筆頭に五山を決めていた。敵対する天皇家(南朝)とは言うものの、悩んだ義満はこれを外すことをためらって、五山の上に別格として南禅寺を置く。それだけの権威があった

のだ。ちなみに鎌倉にも北条氏が決めた五山ある(建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺=不思議なことにこれもすべて臨済宗)。

境内の奥に位置しているので訪れる人も少なく周囲は森閑としている。この水道橋はインクライン(水位の異なる場所へ船を引き上げるケーブルカーのようなもの)にほど近い位置にあり、現在も橋の上にある水路溝には滔々と水が流れているのには驚かされる。



↑ 橋の頂部に設置された水路溝



↑ 柱の中央部はアーチ状に切り抜かれている